

九州初開催！

入江明日香展 時空の旅人

2022年9月3日(土) - 10月9日(日) 福岡アジア美術館



1. 《L'Alpha et l'Oméga》(左隻)(部分) 2019年 丸沼芸術の森 蔵

時空を超えて、あなたと出逢う

入江明日香(1980年、東京生まれ)は、2004年に多摩美術大学大学院博士前期課程美術研究科版画領域修了し、2012年には文化庁新進芸術家海外研修員として渡仏するなど研鑽を積んできました。

2013年、「PAT in Kyoto・京都版画トリエンナーレ」大賞受賞、2014年、文化庁新進芸術家海外研修の成果発表展である「第17回 DOMANI・明日展」出品、2018年には初の大規模回顧展を横浜高島屋・京都高島屋、2019年には茨城県天心記念五浦美術館で開催し、大好評を博しました。

入江の特徴は、あくまでも「版画家」であることにこだわり、西洋の銅版画技法を主軸にしながらも日本画や浮世絵他の技法も縦横無尽に使いこなし、豊かな想像力から創り出す画面構成にあるといえます。異次元にいる人物や動物、お伽噺のなかの住人たちを確かな描写力で私たちに見せてくれます。

2018-19年の大回顧展から3年を経て開催する本展では、初期から直近の代表作・人気作を展覧いたしますが、2019年後に制作の大作や、近年特に取り組んでいる作品(歳時記をテーマにしたもの、書のエッセンスを取り入れたもの、箔を使用したもの)にも、着目していきます。

ますます冴えわたる入江ワールドにご期待ください。

展示構成

I. 初期作品

I章では、学生時代に手掛けた銅版画や抽象的な題材を取り扱った作品等を紹介します。

美大の版画科に入学後、版画表現の面白さにはまっていた入江は、次第に黒一色の版画作品から刷り上がった作品を切り貼りするコラージュ作品へと展開し、表現の幅を広げていきます。



2. 《眠る雨》2004年
丸沼芸術の森 蔵

II. 人物へのまなざし

抽象表現から、花鳥や動物をモチーフとして現わした頃より、人物を描くことも意識し始めます。

対象を模索していたある日、母親が営む造形教室に集う子供たちが、ふとした瞬間にみせる大人とも子どもともつかない表情をする瞬間があることを発見します。

入江が描くどこか浮世離れしていて、我々とは違う次元の住人のような人物が、作品に反映されていきます。



3. 《麟鳳》2011年
I氏コレクション

III. パリへむかって

文化庁の新進芸術家海外研修制度に合格し、パリで1年間、銅版画の研鑽を積むことになった入江は、パリの職人が調合した美しい銅版画のカラーインクと出会ったことで、色彩感覚をより研ぎ澄まし洗練されていきます。



4. 《Le Petit Cardinal》2014年
丸沼芸術の森 蔵

IV.日本にて

パリでの研修は、入江に日本を再考させる機会となりました。

入江の内面にある日本を客体化し、「四天王」、「桜」といったテーマ設定、画面に現れる小さなあやかしたちなど日本の古美術と自分の世界との意識的な接続を試み、古典と現代との融合は見るものを魅了し続けています。



5. 《廣目天》2016年
丸沼芸術の森 蔵

V.一版多色刷

創造を支える確かなテクニック

パリへ赴き、一から銅版画の技術を学びなおした入江は、日本でも屈指の一版多色刷りの技術力を持ちます。

一版多色刷りは、1枚の版の上で、多数のインクを使いこなす技術が必要であり、色の違う個々のインクの特徴を熟知し、大きなローラーの使い方に習熟していないと失敗する繊細な技法です。

これらの高い技術力を有することで入江は創造力をより確かなものにしていきました。



6. 《La couturière》2021年
作家 蔵

VI.温故知新(仮)

入江が近年特に取り組んでいる「歳時記」をテーマにしたもの、書のエッセンスを取り入れたもの、箔を使用したもの等、日本古来の伝統に根ざしながら、さまざまなメディアを取り入れたハイブリッドな作品は、「過去」と「現在」のあわいを感じさせます。



7. 《東京》2021年
丸沼芸術の森 蔵

イベント

入江明日香 ギャラリートーク & サイン会

日時：2022年9月3日(土)11時00分～/10月1日(土)13時00分～

会場：福岡アジア美術館7階

※参加無料(本展チケット必要)、当日受付(参加者多数の場合は先着)

※サインは会場でご購入されたカタログに限ります。

※イベントは変更や中止が生じる場合がございますので、展覧会公式サイトで最新情報をご確認ください。

展覧会概要

展覧会名：入江明日香展 時空の旅人

会期：2022年9月3日(土)～10月9日(日)

休館日：水曜日

開館時間：9時30分～18時00分(金・土曜は20時00分まで)※最終入場は30分前まで

会場：福岡アジア美術館 企画ギャラリー

〒812-0027 福岡県福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7階

アクセス 公共交通機関のご利用

- ・中洲川端駅下車、6番出口より徒歩すぐ
- ・西鉄福岡(天神)駅から天神駅より1分
- ・JR博多駅から博多駅より3分
- ・福岡空港から福岡空港駅より9分

観覧料：一般・大学生 1,400円、中高生 1,200円、4歳～小学生 800円

※前売・20人以上の団体は200円引き

※中高生料金でご入場の際は、学生証等のご提示が必要となります。3歳以下は、無料

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳(以上の手帳を提示した人の介護者1人を含む)、特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証を提示の場合は無料

チケット：7月8日(金) ARTNEチケットオンライン <https://artne.jp/tickets> ほか

チケットぴあ(Pコード:686-118)、ローソンチケット(Lコード:84985)等で発売

主催：西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、TNCテレビ西日本

後援：福岡市、福岡市教育委員会、(公財)福岡市文化芸術振興財団、西日本鉄道

特別協力：丸沼芸術の森

協力：福岡アジア美術館

NFTアート
企画制作：(株)Zero-Ten、(株)グッドラックスリー

企画協力：アート・ベンチャー・オフィス ショウ

展覧会公式サイト：<https://artne.jp/irierasuka/>

巡回予定

会場：松坂屋美術館(名古屋)

会期：2023年2月4日(土)～26日(日)